

麦の生育と管理

平成30年12月号

大分県北部振興局集落営農・水田第一班

播種前後の排水対策について

麦は湿害に弱く、酸素を多く必要とする作物です。播種の前に必ず以下の排水対策を行いましょう。

・本暗渠

設置間隔は、一般的に4～10m程度です。本暗渠だけでは効果が十分でないので、弾丸暗渠を組み合わせてみましょう。

・額縁排水

播種前から播種後に、周囲に作溝しましょう。

・弾丸暗渠

深さ30cm、間隔2～5mで実施しましょう。播種前に未施工の場合は、一回目の麦踏みの頃に施工し排水を向上させましょう。

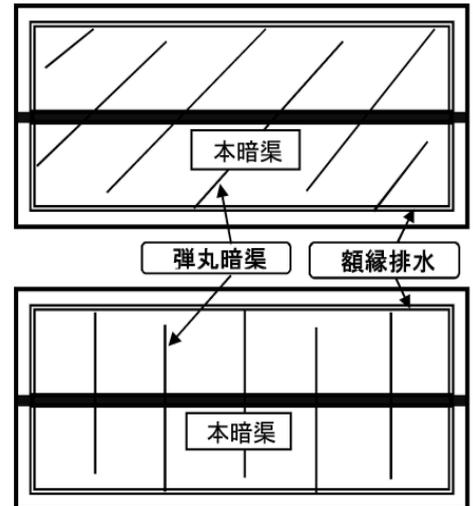


図1 弾丸暗渠施工方法
(上) 本暗渠に対して斜め施工
(下) 本暗渠に対して直行施工

畦間と額縁排水溝をつなげていないと、水が畦間に溜まり、排水能力が十分に発揮できません。額縁排水と畦間、排水口を連結し、地表排水を確実に圃場外へ排出しましょう。

◎晩播対策～播種量を増やしましょう!～

降雨等により、適期（11月下旬）に播種が行えなかった場合は、下の表を参考に播種量を増やし出芽数を確保しましょう。

麦種ごとの播種量(kg/10a)

麦種	播種様式	適期(11月下旬)	12月上旬	12月中旬
小麦	ドリル播(条播)	6～7	7～9	9～10
	シーディングロータリー	7～8	9～10	10～12
大麦	ドリル播(条播)	7～8	9～10	10～14
	シーディングロータリー	8～10	10～13	12～15
裸麦	ドリル播(条播)	5～7	9～10	10～12
	シーディングロータリー	6～8	10～12	12～15

裏面へ

◎ 雑草対策

雑草対策は初期除草剤、土入れ、生育期除草剤の体系防除を徹底しましょう。

播種直後除草剤

薬剤名	使用時期	使用量（10aあたり）	使用回数	
クリアターン細粒剤F	播種直後（雑草発生前）	4～5kg	1回	
キックボクサー細粒剤F	播種直後（雑草発生前）	3～4kg	1回	
リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）	60～80ml ※薬害により白化する場合がある。 希釈水量 100l/10a	1回	
バンバン乳剤	小麦の場合	播種後～小麦2葉期 （雑草発生前）	300～400ml 希釈水量 100l/10a	1回
	大麦の場合	播種後出芽前 （雑草発生前）	300～500ml 希釈水量 100l/10a	1回

※ラベル等をよく読んで使用して下さい

◎ 麦踏みと土入れについて

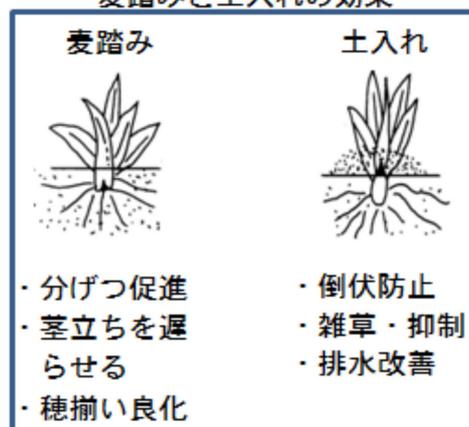
麦踏み

- ・ 3葉期～莖立期までに4回を目安に（赤土圃場は2回）行いましょう。
- ・ 土壌が過湿状態だと麦の生育に悪影響を及ぼします。
- ・ 土壌が乾燥しているときを狙って、麦踏みを行いましょう。

土入れ

- ・ 土入れは、4葉期から莖立期まで4回を目安に行いましょう。
- ・ 1回目は土を薄くかけましょう。厚くかけてしまうと、麦の生育を阻害します。

麦踏みと土入れの効果



◎ 肥培管理 ～分げつ肥で単収増加へ～

- ・ 分げつ肥を散布することによって、穂数が増加し収量が上がります。
- ・ 以下の表を参考に施肥を行いましょう。

分げつ肥(窒素成分)の施肥基準 (kg/10a)

小麦・大麦	施肥量	適期
	2	麦の3～4葉期頃

※晩播の場合は分げつ肥は3kg/10aに増量しましょう。